

第5次 朝酌地区地域福祉活動計画

(平成31年度から5年間)

安全で安心して暮らせる
まちづくり



朝酌を見守る和久羅山

朝酌地区社会福祉協議会

第5次福祉計画策定にあたって

(はじめに)

平成26年度からスタートした第4次福祉計画(平成30年度まで)も平成の終わりとともにその役割を終え、新しい元号とともに第5次福祉計画がスタートします。

第5次計画の策定にあたっては、第4次計画の各項目について評価、検証を行うとともに、より地域の実態に対応できる計画にしたいと全世帯を対象にアンケートを実施しました。その結果、当地区も少子高齢化、人口の減少、家族構成の変化など社会構造の変容による問題点として「見守り活動の重要性」、「相互支援体制」、「地域のつながりの衰退」、「災害時の支援体制」等様々な課題が浮かび上がってきました。このような現状を踏まえ策定委員会では「安全で安心して暮らせるまちづくり」を基本理念に協議を重ねてきました。

「人生100年」や「健康長寿」と言われる時代に対応できるよう住民が相互に支えあい、みんなが一体となった福祉活動の推進ができる体制を目指して計画を策定しました。

また、計画の実行にあたっては、その都度進捗状況を検討しながら実情に即した対応をしていきたいと思えます。そのためには公民館をはじめ、町内会・自治会連合会、民生委員児童委員協議会、福祉推進員・健康推進隊等各種団体との連携強化はもとより地区住民の皆様の一層のご理解、ご協力が必要です。益々のご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、この計画を策定にあたって協議・検討いただいた委員の皆様、アンケートの配布・回収にご協力をいただいた各町内会長の皆様、市社協の今村さんと安部さん、保健師の三島さんをはじめ多数の皆様方のご協力に感謝いたします。

第5次計画策定作業の経過

1. 策定委員会の設置及び開催

朝酌地区社会福祉協議会は、5次計画を策定するため、「第5次朝酌地区地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、12回の委員会を開催しました。

【策定委員会の開催（12回開催）】

- ①平成30年4月26日（木）10：00～
朝酌地区福祉計画策定委員会の結成
- ② 〃 5月21日（月）14：15～
第4次計画を踏まえての課題整理、スケジュール確認
- ③ 〃 6月18日（月）14：00～
「福祉アンケート」の実施について検討
- ④ 〃 7月19日（木）14：00～
「福祉アンケート」の内容、配布・回収方法の検討
- ⑤ 〃 9月5日（水）14：30～
「福祉アンケート」配布報告、今後のスケジュール確認
- ⑥ 〃 10月9日（火）14：00～
「福祉アンケート」の集計
- ⑦ 〃 11月15日（木）14：00～
アンケートの結果を踏まえて課題整理
- ⑧ 〃 12月21日（金）14：00～
第5次活動計画の検討
- ⑨ 平成31年1月16日（水）14：00～
第5次活動計画の策定
- ⑩ 〃 2月20日（水）14：00～
第5次活動計画の策定
- ⑪ 〃 3月12日（火）10：00～
朝酌地区社会福祉協議会理事会にて説明し第5次計画承認
- ⑫ 〃 3月14日（木）18：30～
朝酌地区町内会自治会連合会へアンケート協力のお礼と説明

2. 「福祉アンケート」（平成30年8月～10月）

平成30年8月に町内会・自治会を通じて配付および記入依頼、同10月に回収および集計しました。

3. その他

5次計画書については、平成31年度朝酌地区社会福祉協議会総会で説明・配付するほか、全戸配付します。

第5次活動計画期間中の重点方針

1. 福祉活動体制づくり

地区社協内部の情報共有や意思の疎通を十分図りながら、実働体としての朝酌健康推進隊や福祉推進員会、あるいは、民生児童委員や主任児童委員、母子保健推進員、保健協力員、食生活改善推進員などの福祉関係団体と、緊密な連携をとり、移送支援、子育て支援、健康づくりなどの福祉活動を強化していく。

2. 広報活動の強化と情報提供のあり方

福祉活動の範囲は広く、地区社協（健康推進隊や福祉推進員会を含む）が「何をしているのか」「何をしようとしているのか」を地域住民に十分に理解していただくことは極めて重要である。また、各種講演会や講話、視察等の学習の場の情報を提供し福祉に関する知識・経験の蓄積こそが人材育成に繋がる。そのためには、これまでどおり『福祉だより』を定期的に発行していくほか、『公民館たより』、チラシ等の媒体を通じて広報し、活動に参加していない人への周知方法の見直しを図る。

3. ボランティア人材の把握と育成

地域にあった的確な福祉活動を行うためには住民個々が支援してほしいこと、支援できることの把握が不可欠である。そのため、今後、支援の体制の整備を図り、ボランティア人材の把握と人材育成を行うことにより、細かな福祉活動を展開していく。

4. 小地域福祉活動の推進

高齢化の進展もあり、地域福祉はこれまでの小学校・公民館区の広い地域から小単位(町内会・自治会)での、いわゆる「小地域福祉」への傾斜と必要性を強めている。そのため地区社協では、町内会・自治会と民生児童委員、福祉推進員等が協同で行っている「なごやか寄合事業」「ふれあい福祉大会」を、今後も定期的、継続的に開催できるよう、各地域の実情に応じて支援し、工夫を凝らしながら参加者の増加を図っていく。

5. 見守り活動の推進

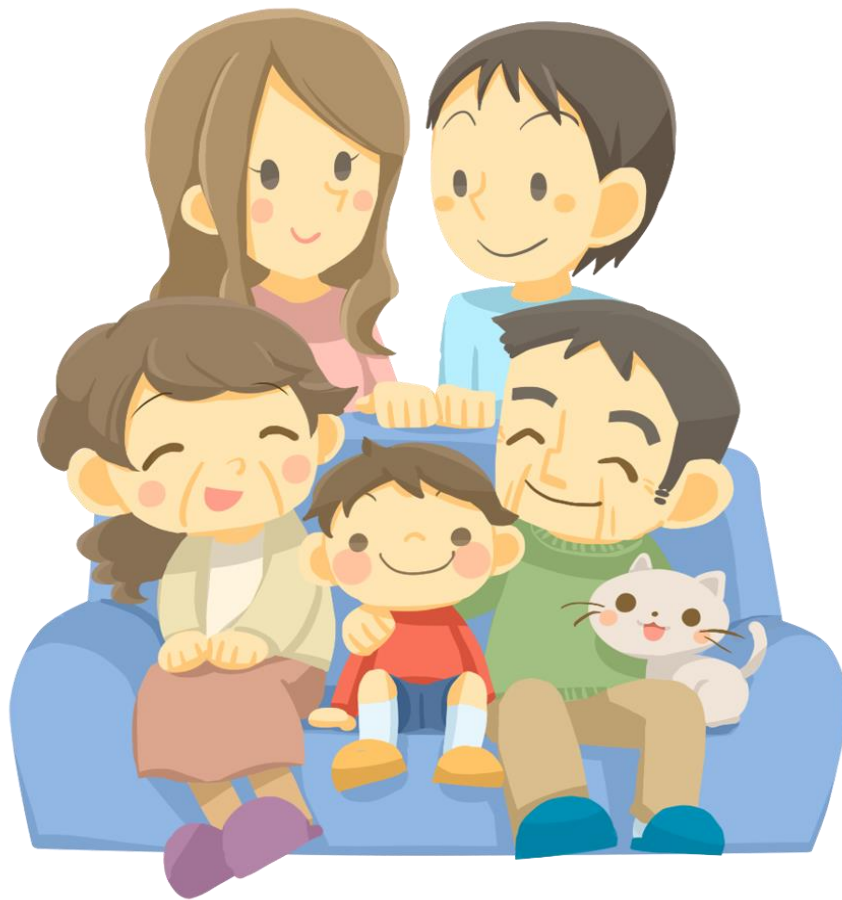
高齢者世帯（独居を含む）や障がいのある人等、平素の生活はもちろん、災害時に支援を必要とする方々（要配慮者）が各地域で今後増加していく状況に伴い、町内会・自治会単位で支援組織の設置を促進していく。また、平常時からその支援組織が十分に機能するよう町内会・自治会、民生児童委員、福祉推進員等と連携を図れるよう地区社協として支援・推進する。

第5次朝酌地区地域福祉活動計画（平成31年度～5年間）

朝酌地区社会福祉協議会

重点方針	活動名	現状	第4次計画中の活動の評価・課題 (平成30年度実施「福祉アンケート」参考)	具体的取り組み内容	年度別 進行・管理・振り返り					備考
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	
福祉活動体制づくり	福祉活動の連携	<ul style="list-style-type: none"> 健康まつえ21朝酌健康推進隊、福祉推進員、民生児童委員・主任児童委員、朝酌地区担当保健師、包括支援センター相談員、市社協職員とのスタッフ会(第2層協議体)を毎月1回開催し情報を共有している 食生活改善推進員、母子保健推進員、保健協力員等とも情報を共有し、活動を支援している 文化祭、防災訓練など連携して実施 	十分にできている 17% まあまあできている 52% あまり・できていない 5% わからない 24% ・約30%の世帯がわからない・できていない結果から全世帯に周知してもらえようにしていく事が大事 ・福祉関係者・スタッフがそれぞれのどのような活躍をしているか、住民に知ってもらおう機会が少ない ・相談先の周知不足	<ul style="list-style-type: none"> 各団体の活動の内容を「福祉だより」、「公民館たより」で周知する 月1回、関係団体との会議を定期開催に開催し連携を図る なごやか寄り合いなどを通じて、相談先・問合せ先の周知を図る 						
	健康まつえ21推進隊活動	<ul style="list-style-type: none"> 「健康まつえ21」推進事業に基づき健(検)診受診率の向上、各種健康講話、ウォーキング、健康体操、食生活改善運動等を実施 文化祭で健康チェックコーナーを設け、意識啓発を行っている 	参加したことがある 34% 参加したことがない 66% ・半数以上が参加したことがない。	<ul style="list-style-type: none"> 講演会の参加希望が多数あるため、講演内容の充実を図る 講演会やウォーキング等、参加しやすい工夫をする 						
	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> わんぱくくらぶ 年16回程度開催 親学・幼稚園との交流・遠足・食育・歯育・クリスマス会等 わいわいサロン 2カ月に一度 育児相談・おやつ提供・交流の場提供等 食育・歯育事業 食育講座・調理実習・歯育講座 	参加している・していた 9% 参加していない 12% 知らない 7% ・知っていても仕事をしている人が多いので平日は参加で ・知らない人が3割いる	<ul style="list-style-type: none"> 保健師による赤ちゃん訪問ですべての母親に周知 子育て支援サロンの年間予定表の作成・配布 育児相談の充実 						
	移送支援	<ul style="list-style-type: none"> 「朝酌わくら巡回福祉タクシー」の運行 寄付金 一回 300円 毎週 火・金曜日 運行(一日一往復) 利用者数 H28年度 721名 H29年度 703名 H30年度 334名(1月まで)	利用したことがある 4% 利用したことがない 79% 知らない 7% ・知っていても利用がないのは残念な結果。このままでは継続は難しいと思われる ・知っているが利用したことがない人が多い ・まだ自分で運転できる人多い。運行しているが利用が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 運行頻度の検討 コース・時間・停留所等の検討 他の方法での助成を検討 						
	研修会・講演会	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協独自に研修・実技講習・講演会・他区交流等を実施している他、市大会・研修・講演会等にも参加 福祉推進員研修会 年4回 健康講話などの講演会 年3回 食育・調理実習 年2回 	参加したことがある 36% 参加したことがない 55% ・役員等何らかの形で公民館との繋がりをもっている方の結果と思われる ・参加したことがない理由で、時間帯的に都合が付かない人が多い	<ul style="list-style-type: none"> 開催時間帯の検討 参加できるきっかけづくりとして、できるだけ全世帯が公民館との繋がりをもてるようにしていく 巡回型の研修会などの検討 						
広報	広報・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 「福祉だより」を中心に「公民館たより」、各種チラシ配布等で、住民に広報している 	読んでいる 45% とときどき読んでいる 46% 読んだことがない 9% ・ほぼ読んでいる結果であるが、読んだことがない9%に視点をあてていく。関心がないという事? ・約9割が一度は読んだことがある(半数が時々読んでいる)	<ul style="list-style-type: none"> より細かく住民に周知できる方法の検討 読んでもらうような見出し・内容の検討 自治会の集会や掲示板を利用 						
	がん検診	<ul style="list-style-type: none"> たよりに記事掲載 広報車での広報活動 チラシ配布 	している 66% していない 16% ・受けていない人2割 ・最も多い理由は検査への抵抗	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見の必要性を訴える 受診日等、きめ細かく周知する 						
人材の把握	ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアして欲しい人、したい人をコーディネートする場がない ヘルスボランティアとして地域で活躍している人がいる (母子保健推進員2名、食生活改善推進員7名、カラコロ体操1名) 	している 30% (個人・団体のボランティアを含む) していない 70% ・ボランティア活躍できる人材はいるが、実際の活躍に結びついていない ・高齢者の不便ベスト3 ①通院 ②買い物 ③草刈り ・人材のコーディネート場の整備が必要	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアをしてくれる人材把握と人材育成 支援してほしいことと、支援できることの把握 支援の体制の整備 						
小地域福祉活動の推進	小地域福祉活動	<ul style="list-style-type: none"> 各地区のなごやか会を中心に小地域単位で福祉活動を計画・実行している 福祉大会(敬老会)町内会・自治会単位で実施している。 	参加したことがある 40% 参加したことがない 23% ・参加したことがない人で、会を知らない人が多い	<ul style="list-style-type: none"> 開催地区での回覧板や公民館たよりでの周知 福祉大会を合同開催するなど小単位での役員の負担が大きくなり継続して小地域福祉活動が行えるよう検討する 研修内容の紹介 						
見守り支援体制づくり	要配慮者支援推進制度	見守り隊の設置(3地区) ・岩崎 ・西尾 ・太陽団地	見守り隊がある又は必要である 75% 必要ない 3% ・見守り隊を知らない結果が53%、全世帯に周知すべき ・見守り隊を知らない人が多い。ある地区なのにないと答えたり、ないのがあると答える人もあり、住民への周知が不足している	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動の充実 高齢者世帯(独居を含む)・障がいのある人等、支援を要する人を援護する組織を町内会・自治会単位で組織するよう推進・支援する 						

第2層協議体にて、計画の進行・管理・振り返りを毎年実施する



第5次朝酌地区地域福祉計画策定委員会